

東横線武蔵小杉～日吉間線増工事に着手

環境アセスメントなどの手続き終了により、平成12年3月30日から

東京急行電鉄株式会社

東京急行電鉄（本社：東京都渋谷区、社長：清水 仁）では、東横線複々線化事業のうち、未着工区間として残っていた東横線武蔵小杉～日吉間線増工事について平成12年3月30日（木）に起工式を行い、工事に着手します。鉄道工事完成は平成17年度を予定しており、この工事が完成しますと、東横線複々線化事業は全ての計画工事区間（目黒～日吉間）が完成することになります。

東横線武蔵小杉～日吉間線増工事の内容は、

①武蔵小杉駅方は地上と高架の上下2段の構造とします。

（上段〔高架橋〕：東横線、下段〔地上〕：都心側地下鉄との相互直通路線）

②元住吉1号踏切道は本線（東横線、都心側地下鉄との相互直通路線）を高架方式により立体交差化します。

※元住吉車庫への出入庫線は地上に残るため、踏切は現状と同様残ります。

③元住吉駅は6線2面ホームの高架構造とし、元住吉車庫上部に移設します。

※外側2線が東横線急行通過線、その内側2線が東横線、真中2線が都心側地下鉄との相互直通路線。

④現在、陸橋で東横線を越えている主要地方道鶴見溝口（都市計画道路尻手黒川線）と東横線の位置を入れ替えます。

⑤日吉駅方は腹付け線増とします。

●②、③、④については、元住吉1号踏切道の本線立体交差化を目的に川崎市との共同事業として行います。

当社では東横線の抜本的な混雑緩和策として東横線の複々線化事業を昭和63年から進めてきています。これは東横線多摩川園～日吉間を複々線化し、目蒲線目黒～多摩川園間を長編成車両（最大8両）が走行できる規格に改良し、目黒駅で都心側地下鉄（営団南北線・都営三田線）と相互直通運転を行うものです。これにより、目蒲線に東横線のパイパシ的な機能を持たせ、都心への新しいルートを東横線に付加することで、東横線の混雑を大幅に緩和させることができます。

今回工事に着手する東横線武蔵小杉～日吉間線増工事の概要は次のとおりです。

東横線武蔵小杉～日吉間線増工事の概要

○工事区間：東横線武蔵小杉～日吉間 2.3 km

○工 期：平成12年3月30日～平成17年度（鉄道工事）

○元住吉駅設備概要（エスカレーター・エレベーター）

・改札口外側（コンコース階～地上）

（西 側） エスカレーター 2基

エレベーター 1基

（東 側） エスカレーター 2基

・改札口内側（ホーム階～コンコース階）

（上りホーム） エスカレーター 2基

エレベーター 1基

（下りホーム） エスカレーター 2基

エレベーター 1基

以 上